



町長コラム ベア・パール



つらだましい
面魂

西銘前復興大臣が復興状況の視察のためにわが町の地方創生拠点であるtsumikiを訪問したいと申し出が来た時に少々唐突感があって驚きました。お出迎えした際、その疑問はすぐに解けました。沖縄県選出の前大臣は「利府町さんは人口が増えていると聞きました。すごいですね。」と開口一番に語り、その謎解きをtsumikiに求めたのです。

数か月前宮城県が誕生して150年の節目もあって、近隣の首長さんたちと宮城県と縁が深い北海道視察、函館市や室蘭市、ニセコ町などを行政視察してまいりました。見聞を深めること数多、その中でも衝撃的な事はいずれの都市も人口減少にあえいでいる真っ最中で、30万都市の函館市では、年間3000人の減少、しかし交流人口は増えている、この進度で人口減が続けば、約10年で利府町が消滅してしまう計算になり、気持ちを奮い立たせねばと感じた次第です。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2025年における人口は1億2254万人、2030年は1億1912万人、2040年には1億1091万人と急激に人口が減少し、2053年にはとうとう1億人を割り込む予測で、70万人程度の大都市

が毎年1個ずつ消滅していくペースです。

こうしたデータからも利府町や近隣の人口が増えている町がいかにか現代日本において「奇跡の町」かがわかります。くだんの函館市から流出する人口の受け皿はどこかと問えば「近隣の七飯町や北斗市です」と即答されました。理由は明快で「子ども子育て支援が充実していて、家賃が比較的安いから」です。今まさに時代のトレンドは「子ども子育て支援」なのです。

利府町は大変シンプルな戦略でもってこの人口減少社会を乗り切ろうと考えています。①知る②来る③住む。先ず町を知ってもらい、そして来てもらう。利府町の良さを体感してもらったら住んでもらう。今は②の段階でしょうか。③に関しては物理的に住宅を供給させる、子育て支援、教育支援などの包括的な経済支援がカギとなってきます。全国の自治体は強い意志と気迫でもって子育て支援に取り組んできています。私たち利府町はそのトップランナーとしてさらに面魂を磨かなければと思うのです。

利府町長 熊谷 大



インターハイ優勝おめでとうございます！



全国高校総体(インターハイ陸上競技)が徳島県の鳴門ポカリスエットスタジアムで行われ、男子3000メートル障害において利府高校3年生の齊藤大空さんが優勝という素晴らしい成績を納めました。

8月30日(火)に町長へ優勝報告のため来庁した際に、インタビューをさせていただきました。

★優勝した時の気持ちは？

昨年は、全国13位と悔しい結果に終わってしまい、そこから1年間は「絶対に優勝する」と周りに発言することで自分にプレッシャーを与え続けてきました。実際に優勝が決まった時には、安心という気持ちが大きかったです。

★これからの目標やビジョンは？

直近の目標は、10月に開催される駅伝で区間賞を取ること、大学に進学後は、箱根駅伝を走りたいと思っています。将来も陸上と関わっていきたいです。

★これまでの部活動や練習を振り返って、思い出や記憶に残っていることは？

1年生の頃は、先輩だけでなく同じ学年の部員にもタイムなどで負けており、練習が終わった後も歩けない程疲弊していて常に悔しい気持ちでいました。しかし、練習を重ねていくにつれ、自分の思うような走りをする事ができるようになった時のことはとても印象に残っています。

★町内の小中学生に対してのメッセージ

中学生の時は県大会で戦うので精一杯でしたが、つらい思いをしながらでも、目標と強い気持ちを持ち続けたことで、今までの努力が「楽しかった」と思えるような結果がついてきました。みなさんも目標を持って、「楽しい」という気持ちを忘れずに過ごしてほしいと思います。